

フェアウェイへのオーバーシードについて

雪印種苗(株)東京支社

園芸課長 妹川 信 男

はじめに

我が国のゴルフ場は北海道から沖縄まで、縦に長い独特の立地条件下で、各地の気象条件に合った芝生をフェアウェイに使用しています。北海道、北東北ではケンタッキーブルーグラス、ベントグラスなどの洋芝を中心に、関東以南はコウライ芝、さらに沖縄（一部西南暖地）ではパーミューダ芝も使われています。これらは作物の適性に合わせた選択で、長い間の経験や優秀なグリーンキーパーの技術によって維持されています。

一方、グリーンは作物としての適性の範囲を大幅に越え、本来、寒地型洋芝であるペンクロスベントが西南暖地あるいは沖縄まで使用されつつあります。プレーヤー側の願望を、作物の適性を越えてメンテナンス技術がクリアした結果です。いずれ「ベント種でなければグリーンではない」という時代になりそうです。

ティーグラウンドも同じ傾向で、最近では人工芝を使うことがはばかれるほど、各ゴルフ場が洋芝によるオーバーシードにより、周年を通じて良いティーを提供しています。特に冬場の黄変したコウライ芝に比較し、その差は歴然としています。

今回は最後に残された場所、フェアウェイへのオーバーシードについて、昨秋、全ホールに実施した木更津ゴルフクラブの例と当社千葉研究農場のテストを運動させながら報告します。

1 ウインターオーバーシードの目的

木更津ゴルフクラブのオーバーシードはゴルフ場セミナー6月号で紹介されていますが、まず、管理室長の樽木利明氏に今回実施したオーバーシード

の目的をお聞きすると、

①夏場は最高のコウライ芝も冬には色があせる。

この欠点を自然物（洋芝）で緑化したい。

②除草剤の節減、特に秋処理剤の節約。洋芝によりスズメノカタビラを押える。又は目立たなくする（スズメノカタビラと洋芝は同色）。

③降雨によるぬかるみやすり切れの保護（土壌保全）。

④毎年まき幅や模様を変えることにより、フェアウェイを演出する（カラーコーディネイト）。

ということでした。極めて理に適った考え方であり、しかも④については、従来の管理から一歩先へ進み、コース演出者としての気概がうかがわれ共感いたしました。

2 草種の選定

以上のことを確認した上で、当社が草種を提案する段階で考慮した選定条件は、

①発芽を含めた初期生育スピードが早い。

②色合いが良い。

③暑さに弱い（夏の暑さに向けいち早く衰退して欲しい）。

④根が浅い。又は少ない（コウライ芝のダメージの軽減とトランジションの容易性）。

この中で最も重視したのは③と④です。すでにティーグラウンドで経験しているように、播種と冬場の状況は十分に自信のあるところで、一番の問題は「コウライ芝に極力ダメージを与えない」。さらに「トランジションが簡単にできる」ということに焦点を絞りました。幸いに当社は、ライグラスの中で極めて根量の少ない草種を育成し、「スクラワセ」の名称で販売しており、この品種を中

心に設計を組みました。

- 草種(1)イタリアンライグラス「サクラワセ」
- (2)ペレニアルライグラス「マンハッタン」
- (3)ペレニアルライグラス「Mix(イタリアン20%混合)」

3 播種方法及び播種作業

播種月：10月19～25日

播種方法：バーチカル(弱め30～40mm)

スイーパー

播種・50g/m²(ブロードキャスト)

目砂・すり込み(2～3mm)

散水・発芽まで2～3回

4 冬場の状況

播種後1か月でティエグラウンドに立つとフェア

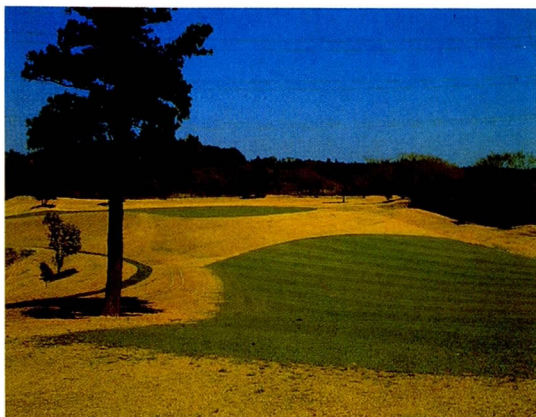


写真1 サクラワセオーバーシード部分が浮きあがって美しい。

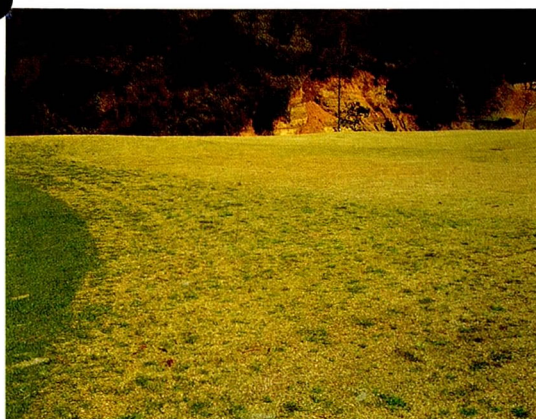


写真2 オーバーシードされない部分はスズメノカタビラが発生し、見苦しい。

ウェイが鮮やかな緑色となり、枯れたラフとのコントラストが美しい(写真1参照)。真近に見ると密度が不足の感もあるが、目的とランジッションを考えた時に50g/m²の播種量が適正と思われました。

各草種の色合いは、マンハッタン>ペレ Mix>サクラワセの順で、ケンタッキーブルーグラスのティエグラウンド、ペントグリーンとの取り合わせからは、マンハッタンの濃緑は異和感が感じられました。この結果、樽木氏の当初目的は十分に達成されました。プレーヤー側としての美観はもちろん、土壌保全効果、そして、樽木氏の夢である演出されたフェアウェイも、毎年ラインを変えて播種することで実現できそうです。

また、雑草対策については、オーバーシード部分にはスズメノカタビラの発生がほとんど見られず、無処理(写真2参照)の部分は、スズメノカタビリが圧倒的に多いという顕著な形で確認できました。おりから千葉県下の低農薬問題にからみ、減農薬へのメンテナンス技術として非常に注目されています。秋処理剤の経費を種子代に回すことで、経費の負担増も少額で済むと思われま。

5 最も問題となるランジッションについて

冬場のプラス効果については、木更津ゴルフクラブの例を待たず、一部のグリーンキーパーはティエグラウンドにおいて経験済です。しかし、フェアウェイの場合、5月くらいを境にコウライ芝に切り換える必要があります、これが一番の問題となります。

樽木氏の場合、低農薬を実践されるグリーンキーパーとして、今春は除草剤による強制切り換えを避け、衰退状況を調査しながら、耕種的な方法での切り換えを追求されており、その試みが継続中です。5月27日の調査では、サクラワセはほとんど衰退しており、切り換えが容易であると思われました。

以下、ランジッションについては、当社千葉研究農場におけるテスト結果を中心に考えてみたいと思います。

6 強い草種は向かない

トランジション適性を判断するため、千葉研究農場での5月26日の衰退状況を観察すると(写真3参照)、OSR(試験品種)>サクラワセ>マンハッタンという順序となり、OSRとサクラワセは特に顕著な衰退状況を示しています。マンハッタンはまだ旺盛な生育で、ティーグラウンドの周年利用にペレニアルライグラスが適しているのうなづけです。

次に根量を見ますと(写真4参照)、OSR<サクラワセ<マンハッタンという結果で、ライグラスの中でも特に根を少なくすることを目的に改良されたOSR及びサクラワセは根量が極めて少ないと同時にスタンド数が大幅に減少していることが分かります。

さらに、除草剤によるトランジションテスト



写真3 左>OSR 右>マンハッタン } 自然条件下でのトランジションの違いが明確、OSRが好適。



写真4 トランジション適性は根量との関係が強い。OSRとサクラワセは根量が少ない。



写真5 トランジション誘導処理効果(OSR)

を見ますと(写真5参照)、除草効果はOSR>サクラワセ>マンハッタンの順で高く、容易にトランジションができると思われます。樽木氏が目指している耕種的な切り換えについても、サクラワセを上回るトランジション適性を持つOSRであれば、十分に可能性が高く、引き続き今秋はOSRを用いて実施していく方向で進めています。

7 おわりに

種苗会社の芝生試験地はゴルフ場ではなく、プレーもしません。したがって、最後の結果は本当のゴルフ場でなければ得られません。その意味で今回、木更津ゴルフクラブ樽木室長が、当社作物側からの提案をお聞き頂き、実践に踏み切られたご英断には深く感謝申し上げます。また、将来に向けて有用な結果が得られたと確信しています。

ゴルフ場のメンテナンスは作物としての常識を超えることで向上してきました。グリーンしかり、ティーグラウンドもまたそのとおりです。茨城県には関東以南で初のフェアウェイ床芝に洋芝を使用したロックヒルゴルフクラブが出現し、業界に大きな刺激を与えてくれました。常識を超えた快挙であると思います。

「コウライ芝は冬には枯れる、この作物生理学上の常識を変えるのは、当面はウインターオーバーシード技術の普及・確立にあると思います。私たちはすでに「サクラワセ」をお届けしておりますが、今後も鋭意研鑽を進め、より適合した品種を開発し、より広い場面で「みどり」の普及に資していきたい所存です。